

[前画面へ戻る](#)

科目名	言語学概論
科目名(英訳)	Introduction to Linguistics
科目ナンバー	HM132A01
詳細情報	授業外学修時間: 週4時間
担当者 (非)は非常勤講師	柳谷 啓子
単位数	2
開講学年	1年
開講セメスター	秋期毎週
対象学科 選択・必修	必修: 選択: HM
他学科受講	
履修順序・履修情報	
担当者及び時間割	
カリキュラムの中での位置付け /DP(ディプロマ・ポリシー)	<p>学科専門教育科目の中のメディア情報社会基盤科目のうちの理論基礎科目として位置づけられる。理論基礎科目は、メディア情報社会に関する基礎的理論を修得するための科目群である。本講義は、「社会」の中での実際の言語使用を学問として捉える観点を育むことにより、自分達が普段行っている言語コミュニケーションに対する気づきを得て、言語による行為遂行・人間関係調整能力の改善を図るすべを獲得する科目である。</p> <p>【ディプロマ・ポリシー(DP)】2024年度入学生以降対象 ①:◎ ②:○ ③:○</p>
身につく基礎力 / 身につく汎用力	/ 豊かな教養 専門的知識・技能 学び続ける能力

授業の主旨 (概要)	<p>日本語とたとえば英語を比べてみると、一見全く異なっているところと、驚くほどの共通したところがあります。前者は、社会構造・歴史などを含むいわゆる「文化」によって形成された部分であり、後者は、生物としての人間が持つ「認知能力」の制約を受ける部分であると考えられます。このような類似点・相違点を単語・文・談話(会話や書き物など、一文よりも大きなかたまり)・非言語コミュニケーション(身振り・表情)など、様々なレベルで見えていき、言語／非言語によるコミュニケーションのどのようなことが研究対象になるのか、どのような研究方法があるのかを紹介します。時間の制約から、この授業では、主に社会構造・歴史などを含むいわゆる「文化」によって形成された部分を扱います。まず、「文化」により形成された思考パターンがことば自体に組み込まれている部分、すなわち、日本語や英語が世の中をどのように異なった切り分け方で表しているのか、同じ事象を表すのにどのように異なった表現構造で表しているのかを見ます。次いで、思考パターンがどのように私たちの言語行動のパターンを決めているか、何が好ましくて、何が好ましくないかの価値基準は何によって決まってくるのかなど、実際に人と人がことばを用いてコミュニケーションをとる際の行動規範を扱います。また、行動規範の違う人どうしがやり取りをする際に起こる誤解や摩擦などを見ていきます。また、生物としての人間が持つ「認知能力」の制約を受ける部分に関しては、日本語と英語の例を用いながら、メタファー(隠喩)のメカニズムに関する研究などを紹介します。私たちがどのように世界のさまざまな対象をとらえているのか、そしてそれらをどのように言語化しているのかを見ていきます。</p>															
具体的 達成目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言語学の中の主要なトピックについて関心をもって語るができるようになる ・言語を対象として言語を用いて分析することができるようになる ・言語学のテーマについて、深く学び続ける意欲をもつことができるようになる ・ことばの働きについて、客観的に思考することができるようになり、より効果的に言語を使うことができるようになる 															
	<table border="1"> <tr> <td>1</td> <td>【内容】</td> <td>サピア・ウォーフの仮説他: 世の中の見方はことばにどのように反映されているか、ことばはどの程度世の中の見方を決めているか、など</td> </tr> <tr> <td></td> <td>【授業外学習】</td> <td>【事前】シラバスをよく読んで、授業の流れを把握し、疑問点を書き出しておくこと。 【事後】この授業のノートをつくって、ファイリングをすること。課題が出た場合は、次回授業日の前日24時まで、別途指示がないかぎりCoursePower上に提出。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>【内容】</td> <td>単語と意味の対応関係: 日本語／英語1語の意味を英語／日本語数語で担っているもの(waterは「水」でもあり「お湯」でもある?)、など</td> </tr> <tr> <td></td> <td>【授業外学習】</td> <td>【事前】授業に参加する前に前回の授業ノートを読み返して、内容を復習しておくこと。 【事後】ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみる。課題が出た場合は、次回授業日の前日24時まで、別途指示がないかぎりCoursePower上に提出。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>【内容】</td> <td>単語と意味の対応関係: 一応対応する単語はあるが意味が微妙にずれているもの(「顔をあげる」の「顔」はfaceでは</td> </tr> </table>	1	【内容】	サピア・ウォーフの仮説他: 世の中の見方はことばにどのように反映されているか、ことばはどの程度世の中の見方を決めているか、など		【授業外学習】	【事前】シラバスをよく読んで、授業の流れを把握し、疑問点を書き出しておくこと。 【事後】この授業のノートをつくって、ファイリングをすること。課題が出た場合は、次回授業日の前日24時まで、別途指示がないかぎりCoursePower上に提出。	2	【内容】	単語と意味の対応関係: 日本語／英語1語の意味を英語／日本語数語で担っているもの(waterは「水」でもあり「お湯」でもある?)、など		【授業外学習】	【事前】授業に参加する前に前回の授業ノートを読み返して、内容を復習しておくこと。 【事後】ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみる。課題が出た場合は、次回授業日の前日24時まで、別途指示がないかぎりCoursePower上に提出。		【内容】	単語と意味の対応関係: 一応対応する単語はあるが意味が微妙にずれているもの(「顔をあげる」の「顔」はfaceでは
1	【内容】	サピア・ウォーフの仮説他: 世の中の見方はことばにどのように反映されているか、ことばはどの程度世の中の見方を決めているか、など														
	【授業外学習】	【事前】シラバスをよく読んで、授業の流れを把握し、疑問点を書き出しておくこと。 【事後】この授業のノートをつくって、ファイリングをすること。課題が出た場合は、次回授業日の前日24時まで、別途指示がないかぎりCoursePower上に提出。														
2	【内容】	単語と意味の対応関係: 日本語／英語1語の意味を英語／日本語数語で担っているもの(waterは「水」でもあり「お湯」でもある?)、など														
	【授業外学習】	【事前】授業に参加する前に前回の授業ノートを読み返して、内容を復習しておくこと。 【事後】ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみる。課題が出た場合は、次回授業日の前日24時まで、別途指示がないかぎりCoursePower上に提出。														
	【内容】	単語と意味の対応関係: 一応対応する単語はあるが意味が微妙にずれているもの(「顔をあげる」の「顔」はfaceでは														

● 授業計画	3	ない?「赤」=redとはかぎらない?), など
	【授業外学習】	【事前】授業に参加する前に前回の授業ノートを読み返して、内容を復習しておくこと。 【事後】ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。課題が出た場合は、次回授業日の前日24時まで、別途指示がないかぎりCoursePower上に提出。
	【内容】	表現構造:「する」的言語・「なる」的言語(自分たちで決めたのに、なぜ「私たち、今度結婚することになりました?」)など
	4	【授業外学習】
	【事前】	【事前】授業に参加する前に前回の授業ノートを読み返して、内容を復習しておくこと。 【事後】ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。課題が出た場合は、次回授業日の前日24時まで、別途指示がないかぎりCoursePower上に提出。
	【内容】	表現構造:無生物主語(「義務感が彼を行動へと駆り立てた」はおかしい?), など
	5	【授業外学習】
	【事前】	【事前】授業に参加する前に前回の授業ノートを読み返して、内容を復習しておくこと。 【事後】ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。課題が出た場合は、次回授業日の前日24時まで、別途指示がないかぎりCoursePower上に提出。
	【内容】	呼称表現:相手/自分をどう表すかを決めるのは何か, など
	6	【授業外学習】
	【事前】	【事前】授業に参加する前に前回の授業ノートを読み返して、内容を復習しておくこと。 【事後】ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。課題が出た場合は、次回授業日の前日24時まで、別途指示がないかぎりCoursePower上に提出。
	【内容】	呼称表現:呼称表現を使ってどのように人間関係を調整しているか(なぜ息子は父親に向かって「今日パパ何時に帰ってくる?」と言えるのに、父親は息子に向かって「今日息子何時に帰ってくる?」とは言えないのか?), など
	7	【授業外学習】
	【事前】	【事前】授業に参加する前に前回の授業ノートを読み返して、内容を復習しておくこと。 【事後】ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。課題が出た場合は、次回授業日の前日24時まで、別途指示がないかぎりCoursePower上に提出。
	【内容】	敬意表現:同じことを言うのに何通りも言い方があるのはなぜか、円滑な社会生活を送る上でのことば選びを決めているのは何か、どの言語にもより丁寧な言い方とよりぞんざいな言い方があるのはなぜか, など
8	【授業外学習】	
【事前】	【事前】授業に参加する前に前回の授業ノートを読み返して、内容を復習しておくこと。 【事後】ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。課題が出た場合は、次回授業日の前日24時まで、別途指示がないかぎりCoursePower上に提出。	
【内容】	敬意表現:根底に働いているメカニズムはどのようなものなのか, など	
9	【授業外学習】	
【事前】	【事前】授業に参加する前に前回の授業ノートを読み返して、内容を復習しておくこと。 【事後】ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。課題が出た場合は、次回授業日の前日24時まで、別途指示がないかぎりCoursePower上に提出。	
【内容】	文章構造:どのような文章が「いい文章」とされるのか、文章構成の規範を決めているのは何か, など	
10	【授業外学習】	
【事前】	【事前】授業に参加する前に前回の授業ノートを読み返して、内容を復習しておくこと。 【事後】ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。課題が出た場合は、次回授業日の前日24時まで、別途指示がないかぎりCoursePower上に提出。	
【内容】	発話行為:発話行為理論とは何か, など	
11	【授業外学習】	
【事前】	【事前】授業に参加する前に前回の授業ノートを読み返して、内容を復習しておくこと。 【事後】ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。課題が出た場合は、次回授業日の前日24時まで、別途指示がないかぎりCoursePower上に提出。	
【内容】	発話行為:謝罪表現・感謝表現などの違い、「僕が窓を割りました」は謝罪か?、「どうもすみません」は感謝か謝罪か、どのような行為を行うと謝罪/感謝の表現が必要となるのか, など	
12	【授業外学習】	
【事前】	【事前】授業に参加する前に前回の授業ノートを読み返して、内容を復習しておくこと。 【事後】ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。課題が出た場合は、次回授業日の前日24時まで、別途指示がないかぎりCoursePower上に提出。	
【内容】	メタファー表現:なぜ「良いもの」「力のある者」は「上」(上等, お上)で表し「劣るもの」「力のない者」は「下」(下品, 下々の者)で表すのか, など	
13	【授業外学習】	
【事前】	【事前】授業に参加する前に前回の授業ノートを読み返して、内容を復習しておくこと。 【事後】ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。総復習問題の課題を実施し、次回授業日に持参する。	
【内容】	メタファー表現:なぜ「前(さき)の副将軍水戸光圀」は過去の人なのに「前途洋々」は未来のことなのか、「明るい声」はどんな声か, など。復習問題の答え合わせと質疑応答。	
14	【授業外学習】	
【事前】	【事前】授業に参加する前に前回の授業ノートを読み返して、内容を復習しておくこと。 【事後】ノートを点検して、理解しやすいように整理し、また、補足的な知識を得るために参考文献などを読んでみること。	
【内容】	総括:これまでのテーマの総復習と発展学習のテーマ, など。また、学期を振り返っての理解度の確認を行う。	
15	【授業外学習】	
【事前】	【事前】授業に参加する前に前回の授業ノートを読み返して、内容を復習しておくこと。 【事後】わからなかった/答えが間違っていた問題について、ノートを見返して理解しておくこと。	

④ 授業方法	<p>・基本的に講義形式で行います。特定のテキストは使用しません。必要に応じてプリントを配付します。出欠確認を兼ねて、毎回授業の最後の10分ほどを使ってその日に学んだこと、考えたこと、疑問点などを書いてもらいます。</p> <p>・提出された課題は、基本的には後日評価と簡単なコメントを付けて返却しますが、場合によっては総評や代表例への講評で代えることもあります。</p>
④ 成績の評価方法	<p>ア 授業参加度……………40%</p> <p>イ 授業理解度……………60%</p> <p>授業参加度は、各回のテーマ・紹介する研究の主旨等を把握できた程度に応じて評価します。</p> <p>授業理解度は、最終的に言語学の研究テーマや用語等がどれだけ身についたかの程度に応じて評価します。</p>
④ 成績の評価基準	<p>ア 授業参加度</p> <p>授業参加度は、授業内で数回書いてもらう「学んだこと・考えたこと・疑問点」によって、3-0で評価します。</p> <p>3……良い(その授業の主旨をよく把握し、問題点やそれに対する研究者らの解決を包括的に理解した)</p> <p>2……普通(その授業の主旨をほぼ把握し、具体例などを散発的に理解した)</p> <p>1……努力不足(ほとんど何も学んだ形跡がない)</p> <p>0……欠席</p> <p>イ 授業理解度</p> <p>各種キーワード(用語)、重要理論の考え方と応用、などがどれだけ身についたかをクイズ形式、または、レポートの形でみます。(事前にスタディ・ガイドとしてサンプルなどを渡します。)100点満点。</p> <p>* 総合成績評価</p> <p>以上2項目が全て満点の場合を100%として、以下にしたがって成績をつけます:</p> <p>S…… 90~100%</p> <p>A…… 80~89%</p> <p>B…… 70~79%</p> <p>C…… 60~69%</p> <p>E…… 59%以下</p>
④ 教科書	
④ 参考文献	
④ 備考	<p>やむを得ず欠席した場合は必ず、授業内容、配布物・課題の有無などについて各自の責任においてフォローしておいてください。授業に関する指示、再評価の際の再試験/レポートの連絡などは、全てWebメールを使用して行いますので、各自の責任において転送設定を確実に行ってください。参考文献は必要に応じて紹介します。</p>
④ 関連ホームページ	
④ メールアドレス	柳谷 啓子 kyanagiy@fsc.chubu.ac.jp
④ オフィスアワー	

[前画面へ戻る](#)